



国際ロータリー第 2790 地区第 5 グループ
2025-26 年度 第 17 回例会 (通算第 2707 回) 週報
2025 年 12 月 3 日 (水)

出席

会員 44 名 出席 28 名 欠席 16 名

出席率 68.29% (28/41)

修正前出席率 63.41%

修正後出席率 73.17%

欠席者【敬称略】

石田・江崎・加藤・金見・小島・嶋津・四宮・鈴木(秀)・鶴岡・
林田・藤野・松岡・宮寺

メイクアップ【敬称略】

11/30 RLI パートⅢ

渡邊(慎)

12/3 第 6 回定例理事会

吉田・倉島・佐藤・安川・大里・青木・近藤

11/22 RLI パートⅢ ZOOM 会議

石田

11/30 RLI パートⅢ ファシリテーター

石田

11/6 東京南 RC

宮寺

例会

■司会進行

S.A.A. 大里光夫委員長



◆点鐘

吉田和義会長

◆国歌斉唱

◆R ソング斉唱

「奉仕の理想」

◆四つのテスト

阪中昌司会員



会長 吉田和義
幹事 倉島和広
会報・IT 活用委員会委員長 阪中昌司
副委員長 大岩もえ

RI 会長 フランチェスコ・アレツツォ
ガバナー 時田清次
ガバナー補佐 渡邊慎司

◆ゲスト・来訪ロータリアン紹介
新会員予定者 ^{はまだ}濱田こころ様

吉田和義会長

指名委員会 青木和義委員長

◆誕生日祝い
渡邊元貴会員(11/29)

吉田和義会長



審議事項

第1号議案

次年度役員及び理事候補者承認の件

◆私の記念日祝い
吉田和義会員(12/3)

◆年次総会

議長 吉田和義会長



定足数の確認 倉島和広幹事

2025年12月3日

年次総会 次第

1. 議長： 会長 吉田和義
2. 定足数の確認： 幹事 倉島和広
3. 議案上程
第1号議案 次年度役員及び理事候補者承認の件： 指名委員会 委員長 青木和義

「本東津東ロータリークラブ細則第9条の規定に基づき、次年度副会長・会計・副幹事及びその他の5名の理事について候補者を発表いたします。

役 職 名	候 補 者 氏 名
副会長	小林 千晃 (こばやし ちあき)
会計	叶川 博章 (かのがわ ひろあき)
副幹事	松岡 那佳 (まつおか くによし)
理事	加藤 智生 (かとう ともお)
理事	堀内 正人 (ほりうち まさと)
理事	石井 文子 (いしい あやこ)
理事	江崎 勝博 (えさき かつひろ)
理事	内田 慎一郎 (うちだ しんいちろう)

ご審議の程、よろしくお願いたします。」

4. 採決
5. 指名委員会の解散
副会長、会計、副幹事、5名の理事の当選者が決定しましたので、指名委員会は任務を終了し、解散となります。
6. 閉会



◆会長挨拶・報告

吉田和義会長



皆さま、こんにちは。本日は12月第1例会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

まず、前回例会から本日までの活動についてご報告いたし

ます。昨日、岩根小学校にて大豆の収穫作業が行われました。私は仕事の都合で参加できませんでしたが、味噌作りに向けてプロジェクトは着実に進んでおります。

今年はロータリー活動を通じて「大豆を育てる」という貴重な経験をいたしました。農業は日々の天候に左右され、手間もかかり、決して容易ではありません。その大変さをほんの少しですが身をもって感じることができました。

さて、来年2月18日に予定されている第5グループのインターシティミーティングについてお知らせです。本年度は、このIMを当クラブの例会としております。第6グループと合同開催と言うことでガバナー補佐から伺っておりますが、普段あまり付き合いの無い第6グループのメンバーさん達と協調しながら進めるのは正直難しいと思われまます。当クラブ中心で運営をすることになるかと思いますが、これは新しい交流の機会でもあります。互いに知恵を出し合い、協力し合うことで、より充実した会となるはずです。

当日は400名程の参加者が見込まれるとのことですので、会年次総会員皆様のご協力が不可欠となって参ります。ぜひ一人ひとりが力を合わせ、当クラブらしい温かい運営を実現していきましょう。詳細につきましては、今後改めてお知らせいたしますが、2月18日水曜日は今から予定を空けておかれますようお願い申し上げます。

皆さまと共にこの大きな行事を成功させ、次の年度へとつながる新しい一歩を踏み出してまいりましょう。

以上、会長挨拶並びに報告とさせていただきます。

◆幹事報告

倉島和広幹事



1. 幹事報告

- 1) 本日例会終了後、第6回定例理事会を開催いたします。理事の皆様ご出席をよろしくお願いたします。
- 2) 今月のロータリーレートは156円となっております。
- 3) ガバナー事務所より「財団ニュース12月号」が届いておりますので回覧いたします。
- 4) ガバナー事務所より「年末年始休業の連絡」が届いておりますので回覧いたします。

2. 他クラブからのお知らせ

なし

3. その他のお知らせ

なし

4. 回覧

- ガバナー事務所より「財団ニュース 12月号」
- ガバナー事務所より「年末年始休業の連絡」

◆委員会報告

◇ロータリー財団統括委員会

堀内正人副委員長



この後、卓話をさせていただきますが、今日は、2790地区のロータリー財団統括委員会のメンバーとして少しお話をさせていただきます。入り口のポストに、この謎のレターがある人となない人がいたと思いますが、このレターは「Thank you レター」と言います。ロータリー財団のご寄付に対する感謝の気持ちを込めたレターです。財団への寄付には色々な分類があり、皆さん150ドルのご寄付をお願いしたいという話が11月にあったと思います。この寄付を年次基金へのご寄付と言いますが、寄付をいただいた3年後に、地区の方に戻ってきて、皆さんが今使っていただいている地区補助金ですとか、グローバル補助金といった活動に使われます。

で、このレターは、2021-22年度に年次基金にご寄付をいただいた方だけに送っていますので、お手元にある方はありがとうございます。お手元にはない方は、ぜひ今後ともロータリー財団へのご協力をお願いしたいということです。今回、当クラブでは10人だけが対象という結果でしたので、皆様、今後ともよろしくお願いたします。

◇青少年奉仕委員会

内田慎一郎委員長



青少年奉仕委員会の内田でございます。昨日、岩根小学校で大豆の刈り取り作業をさせていただきました。ロータリーの

会員の方が10名、そして、ジェスパルさんが8名でしたか、それと学校の生徒さんを含めて約60名のメンバーでやらせていただきました。時間的には1時間ちょっとで終わりましたが、次回、これから1ヶ月ほど大豆を乾燥させて、次から脱穀作業に入ります。脱穀作業は、1月の成人式のある週を予定しております。学校側と調整いたしまして、なるべく早く皆様方に告知したいと思っておりますので、その際はぜひまたご協力をよろしくお願いいたします。

◆ニコニコボックス報告 親睦出席委員会 外崎広旭会員



○ 渡邊元貴会員

誕生日を迎えて益々気力充実。これからも元気でやります。

○ 渡邊慎司がバナー補佐

4年越しでRLIを卒業することができました。ぜひ皆さんもRLIに参加してみてください。ミスター財団の話を楽しみにしています。

○ 吉田和義会長

今日が結婚記念日でした。プログラムを見て気付きました。堀内さん、本日は卓話よろしく願いいたします。

○ 石井文子会員

本日は堀内様にポリオの卓話を頂きありがとうございます。

◆出席報告

親睦出席委員会 外崎広旭会員

■例会アワー

ポリオプラス委員会

◆卓話

テーマ：「ポリオとロータリー」

卓話者：堀内正人様

国際ロータリー 2790 地区

ロータリー財団統括副委員長



※ポリオがいかなる疾病であるのかについての説明をしていると今日の持ち時間は使い果たすので、ポリオそのものについては配布資料で確認をして欲しい。Chapter1 ではポリオ根絶への取り組みが如何なる手法で行われ、そしてロータリーがどのように関わったのかを、Chapter2 ではポリオの現状と、ここ木更津市にいるロータリアンである私たちは何をすればよいのか、について説明する

1. Chapter1

尾身茂先生と WHO の奮闘 1990 年～

▼尾身茂先生が WHO に入った 1990 年代の西太平洋地域ではポリオが蔓延

- 1990 年に報告された公式感染者数は 5,991 名だが、当時はサーベイランス（調査監視）体制が未熟であり、実際にはこれの 100 倍以上のポリオ患者がいるものと予測
- ポリオは不顕性感染（感染しても発症する人はわずか）ということを経験すると、至るところポリオウイルスだらけ

⇒ WHO は、次の 3 つの戦略を立て、1991 年東京で開催される第 1 回専門家会議で諮り、支援を呼びかける、とした

1. 急性弛緩性麻痺 (AFP) のサーベイランス体制の確率（全ての AFP の報告と便検査の実施）
2. 1 歳未満の小児への定期予防接種率を向上させる（集団免疫を形成する）
3. 特別予防接種期間の設定（5 歳以下の小児全員にポリオ経口ワクチンを接種させる）

⇒国（地域）全体をワクチン漬けにして、ポリオウイルスの生存の場を奪う

▼ 1991年4月第1回専門家会議(東京)

- 戦略案そのものは好評であったが、その戦略の実行方法の段となると、政治的課題、実行上の困難、30億円必要とされる資金についての激しい質問攻めにあい、同意を得ることができず、1円の資金提供も得ずに終わる
- 会議後も日本政府、開発援助機関、UNICEF、民間企業などを回るが資金提供の目途は立たないまま年月が経過する

▼ 1992年10月第3回専門家会議(北京)

- ここに至るまで資金援助の申し出は1件も無いままであったが、尾身先生の元に3人(日本・アメリカ・インド)のロータリアンが訪れ「WHOが中国のワクチン接種を5歳以下ではなく、4歳以下に引き上げてくれたら、国際ロータリーは1.5億円の資金提供をコミットする」と申し入れた
- ポリオは5歳以下の小児が発症することが多いが、理由は不明ながら中国では4歳以下の小児の発症例が大多数であり、この3人のロータリアンはその状況を知っていたので尾身先生に打診をした
- 寄付者の都合で戦略変更するべきはないという考えもWHOにはあったが、この資金提供を大歓迎で受け入れた

▼国際ロータリーの1.5億円が呼び水に

- 民間の1団体である国際ロータリーが資金拠出した事実を受け、日本政府も動くことに
- 外務省との交渉の結果、消耗品として対象外とされていたワクチンもODAの対象に
- 1993年5月細川内閣により、中国へ7億円の無償資金協力が決定

⇒西太平洋地域のリーダ格である日本が決意を示したことで他の援助機関も資金拠出が積極的に

政治的な課題(中国のひとりっ子政策、フィリピンやカンボジアなどの内戦地域)も各国政府と交渉してクリアに

▼ポリオ根絶=“ゼロ”の証明

- 信頼性の高いサーベイランス体制の構築(AFPの報告は人口10万人に1人という基準を上回るとサーベイランス体制が機能している状態)
- 1995年からサーベイランス体制が機能
- ポリオ感染者が1名出ると2か月後には必ず次の感染者が出現することがわかっていた。ゼロの証明は困難であり、尾身先生はこれを確実にするために3年間監視することにした(根絶すなわち3年間ゼロ)

▼国際ロータリーの貢献こそが・・・

◎国際ロータリーの1.5億円が先鞭をつけたことで、ポリ

オ根絶への活動は一気に加速

- 1997年3月19日カンボジアで西太平洋地域の最後の症例報告
- 2000年10月に西太平洋地域のポリオは根絶宣言
- 2006年には常在国は4か国まで減少(アフガニスタン・パキスタン・インド・ナイジェリア)
- 2014年にはインド、2021年にはナイジェリアで根絶

「ポリオが根絶された時、世界から拍手喝采を受けるのはビル・ゲイツかもしれないが、私は国際ロータリーの貢献こそがポリオ根絶に繋がったのだと主張する」

と尾身先生はご講演や著書の中でおっしゃられている(ロータリアンとしては嬉しい限り)

2. Chapter2

ロータリーの最重要目標は？

- ロータリーの最重要目標は「ポリオ根絶」
- 野生株ポリオの根絶を目指し、1985年からポリオプラス・プログラムを展開し、これまでに約30億ドルを投入
- 「根絶」の定義は3年間ポリオ発症者がゼロの状態、であることは既出のとおり

▼アフガニスタンとパキスタンの2か国が野生株ポリオ常在国として残っている理由

1. 治安の不安定、武装勢力の存在：予防接種、サーベイランス活動が困難
2. 社会文化、宗教上の問題：ワクチン拒否、誤情報流布
3. 脆弱な公衆衛生インフラと医療体制：管理不備、接種漏れ
4. 280kmの国境線を跨いでの頻繁な両国の人口移動、300万人ともいわれる難民：ウイルスの再拡散

▼GPEI(世界ポリオ根絶推進活動)：世界最大の公衆衛生プロジェクト

- WHO、米国CDC、ビル&ミランダゲイツ財団、GAVIアライアンス、UNICEF、国際ロータリーなどの構成し、それぞれの立場・役割でポリオ根絶を推進
- トランプ大統領は米国のWHO脱退を宣言しており、早ければ2026年1月には脱退となる。影響は極めて大きい、GPEIとしてはポリオ根絶推進への強い意思に変わりはないと宣言している

▼ビル&ミランダ・ゲイツ財団のマッチング

- 国際ロータリーが毎年5,000万ドルをポリオ根絶に拠出することを条件に、ゲイツ財団はロータリーからの拠出金に対して2倍額を上乗せする(例：30ドルのご寄付が90ドルになって活動に投入)

▼ポリオ根絶に向けて私たちにできることは？

- 啓発、広報活動：10月24日の世界ポリオデーにイベント等を開催する（最近パキスタン等の現地で実際に予防接種活動に取り組むロータリアンも増えてきている）
- 資金調達：日本のロータリーはポリオプラス基金に1人当たり30ドル以上のご寄付をお願いしており、このご寄付はゲイツ財団によって2倍上乘せされ、全額がポリオ根絶活動に投入される
- アドボカシー活動などがあるが、
⇒ まずは、「ロータリーの最重要目標 = ポリオ根絶」の意識を持つことが大切

▼ロータリアンが意識を持つ

- 2790地区はポリオデーに合わせてイベントを開催：毎回参加者は200～300人程度（地区内にロータリアンは2600名強が在籍）
- イベントは参加しにくい？（日程や場所の問題？）卓話に回ると、今回のイベントに参加しなかったというクラブに出会うことも。
⇒ それでは、ロータリアンが確実に集まって、皆でポリオに向き合い考える時間は？
☆それは例会であるはずで

- 私の会長年度の2023-24年度にポリオプラス委員会を立ち上げ、年に2回ポリオに向き合い考える例会を設けたが、昨年度、本年度もポリオの委員会は残っており、こうしてポリオのこの考える例会を開催していただき、多くのご寄付もいただいていることは、我がクラブとして誇らしいし、地区委員長としても嬉しい限り
- ご寄付は、自分以外の「誰かのために」、という思いでする行為であり、とても素晴らしいこと
- 来年の体制がどうなるかは知らないが・・・是非継続して欲しいと思う

▼ポリオ根絶まであと少し

- 2025年11月24日現在のポリオ発生件数；アフガニスタン30、パキスタン9
- ポリオ根絶において「最も困難なのは最後の1%」と尾身先生も仰っている
- 最近の流行りは、直接的なワクチン提供や啓発活動にとどまらず、グローバル補助金を活用した「水と衛生プロジェクト」など、濾過施設の設置や衛生教育などの支援活動が見られるが、
まずは、「ロータリーの最重要目標 = ポリオ根絶」の意識を持つことが大切

◆点鐘

吉田和義会長

例会日：毎週水曜日 PM12:30～1:30

例会場：オークラアカデミアパークホテル TEL 0438-52-0111

事務局：木更津市朝日1丁目2-29 シグママンション朝日B棟105号
TEL 0438-25-0716 FAX 0438-25-0718

木更津東ロータリークラブ事務局メールアドレス
eastkisarazu-rc@nifty.com

◎「ポリオ根絶とロータリー」 補足資料

国際ロータリー第2790地区 ロータリー財団統括副委員長 堀内 正人

①ポリオの基本的知識

▼ ポリオ(急性灰白髄炎、脊髄性小児麻痺)

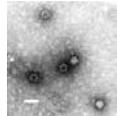
・ポリオウイルスによって発生する疾病。古代から人類に存在したと考えられている(古代エジプトの壁画にポリオの症状の特徴が見られる、など)。18世紀頃から1950年代まで世界各地で流行。

・5歳以下の子どもがかかることが多いが大人も発症することがある。

・麻痺などを引き起こし、発症した場合の治療方法が無い(感染を防止するしかない)。



▼ ポリオウイルスとは？



1) 野生株ポリオウイルス

・野生株ポリオウイルスは1型、2型、3型の3種類。2型は2015年9月、3型は2019年10月に根絶が宣言され、現在は野生株1型ウイルスの伝播が続いており、この野生株由来のポリオ根絶を目指している。

2) 伝播型ワクチン由来ポリオウイルス(VDPV)

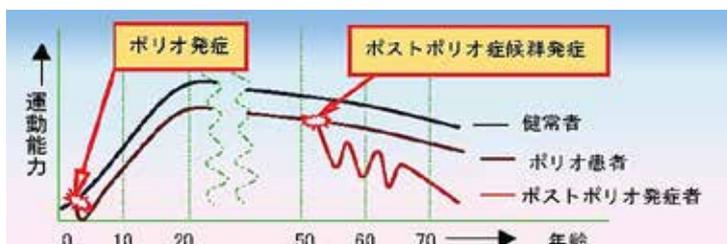
・経口ワクチンが含むポリオウイルスが下水などの環境下で遺伝子変異を起こし、野生株同様の症状を起こす。

▼ ポリオウイルスの感染経路

・経口感染:ウイルスで汚染された水などが人の口の中に入る→腸の中で増殖することで全身に感染→感染者の腸内で増殖したウイルスが排便により下水に流入→上下水道の未整備など衛生状態が悪い場合に、下水に流入したウイルスが再び人の口に入り、感染が拡大。潜伏期間は3~21日間。感染者の90~95%は症状が出ない(不顕性感染)が、感染者の5~10%で発熱、倦怠感、嘔吐、下肢痛などの症状が出る。更にごく一部(0.1~0.2%)でウイルスが脊髄の灰白質や延髄に入り、腕や脚に急激な麻痺が生じ(急性弛緩性麻痺)、延髄や呼吸筋が侵されると自発呼吸ができなくなる(鉄の肺:現在は陽圧換気による人口呼吸器に置き換わっている)。

▼ ポストポリオ症候群

幼少期にポリオを発症した人は、急性症状の回復から数十年後(40~50歳代)に、新たな筋力の低下や極度の倦怠感など、更なる症状を発現することがある(ポストポリオ症候群)。治療する方法は無い。



▼ポリオワクチン:生ワクチンと不活化ワクチンがある

1) 経口ワクチン(生ワクチン OPV)

・「弱毒化された生きたウイルス」を口から投与し、腸で増殖させて免疫をつくるワクチン。経口投与によって接種。感染拡大を止める力が強く、世界的なポリオ根絶を大きく前進させた最大の立役者。

・メリットは低コストで投与が簡単なことであり、ポリオ流行地域で広く使用される(急速に感染を抑えることができる)。デメリットとして、ごく稀に体内で弱毒化株が変異して本来の病原性を取り戻し、他者に感染できる能力を再獲得すること。接種者から弱毒性ポリオウイルスが1~2か月排出(便)され、免疫の無い人に経口感染するとポリオと同じ症状が出ることもある(赤ちゃん→オムツを代える保護者など)。伝播型ワクチン由来ポリオウイルス(VDPV)を引き起こすことがある。

2) 不活化ワクチン(IPV)

ポリオウイルスを不活化し、免疫を作るのに必要な成分を取り出して病原性を無くして作ったワクチン。注射により接種。メリットはウイルスとしての働きが無いので、ポリオと同様の症状が出るという副反応がない(発熱は出る)ことで、デメリットは高コストであること、注射による接種が必要であることからポリオ非流行地域で使用されている。

※日本の予防接種

経口ポリオワクチンは2012年8月末まで定期接種。2012年9月1日から不活化ポリオワクチン(注射)に切り替わっている。なお、1975年~1977年生まれの方は、接種したワクチンのロットによる問題でポリオ抗体が低い傾向がある(必要に応じて追加接種を推奨されることがある)。

② ポリオの現状

1)野生株1型(WPV1)

・常在国はアフガニスタンとパキスタンの2か国。11月11日現在でアフガニスタン6名、パキスタン29名。

2) 伝播型ワクチン由来2型(cVDPV2)

・ワクチン未接種(免疫を持たない)人が地域に一定数いる→経口ワクチンを接種した子どもから排泄されたウイルスが、それら免疫の無い人に感染→感染を繰り返すうちにウイルスが強毒化→病原性があるウイルスとしてヒトからヒトへ広がる段階にまで変化=ワクチン由来ポリオウイルスの出現。

③ ポリオ根絶計画(GPEI :Global Polio Eradication Initiative)



1988年に発足(WHO、ユニセフ、国際ロータリー、米国CDC、ビル&メリンダゲイツ財団などが参加)

2029年までに、

1)今も野生型ポリオが常在する2か国(パキスタンとアフガニスタン)で野生型ポリオの伝染を阻止すること

2)伝播型ワクチン由来ポリオウイルスの発生を阻止すること

を目指している(GPEI 2026 Action Plan)。